アフガニスタン山の学校だより　翼（ばあーる）2019年号　発行：アフガニスタン山の学校支援の会　発行日：2019年11月24日

翼 ばあーる

アフガニスタン山の学校だより
ばあーる 2019年号
通算35号

2019年 アフガニスタン訪問報告

▲この子たちの笑顔にこそ、アフガニスタンの未来と希望がある。

小さな翼を持った子どもたち

今年の1年生は23人。まだあどけない子、ちょっとぽかんとしている子、はにかんでいる子…。でも、みんなで笑い転げている様子はまるで「玉」のようで、どの子も可愛さにあふれていました。この子たちの笑顔にこそ、アフガニスタンの未来があり、希望があると思えました。

駐留米軍の早期撤退を目指すトランプ政権は、現政権抜きでタリバンとの交渉を進めています。そうした中、9月28日に大統領選挙が行われました。結果が出るのはまだ先ですが、誰が勝利しても平和を第一に考え、国民の声が反映する政府づくりに邁進してほしいと願っています。

私たちの「支援の会」誕生の契機となった抵抗運動の指導者マスード。建築家を目指し、読書好きの若者をソ連軍やタリバンとの戦いに立ち上がらせたのは「自分の国のことは自分たちで決めたい」という願いでした。その国づくりに欠かせないのが、自由な選挙です。しかし、今回の選挙では、全国投票所の1割、40箇所以上でタリバンの妨害によって投票が実施できませんでした。「国民の声を聞き、平和を実現すること」が進まない現状に苛立つこともありますが、そんなときこそ、この子たちの笑顔を思い出したいと思います。

地域の大人も苦しいとき、この子たちの姿に元気をもらい、前を向く勇気をもらっているはずです。「支援の会」はこれからも、この子たちの笑顔がもっと伸びやかにたおやかになれる日が来ることを願いながら活動を続けます。

アフガニスタン
山の学校支援の会代表

長倉洋海

子どもたちの瞳に、希望を見つけた

アフガニスタン訪問報告　2019年3月24日～4月5日

長倉洋海

3月24日（日）

深夜、羽田を出発。今回は現地の治安がよくないので私ひとりの訪問となった。ドバイ経由で、26日（火）、カブールに向かう。午後、カブールに到着。安井浩美さんと合流、彼女の家へ。

3月27日（水）

朝、大統領選に3度目の出馬表明をしているDr.アブドラを表敬訪問、一緒に朝食をとる。前回の選挙は決選投票にもつれ、そこで彼は勝利すると思われていたが、票の不正操作のせいで敗れ、現在、行政長官を務めている。マスードを慕っていた彼に勝利してほしい。日中、安井さんとノート、ペンなどの袋詰め。

夜はマスードの長男アハマッドに15年ぶりに会う。夢に父親が出てきた話をしてくれる。「『破壊されたこの国を再建しろ』と言う父に『できない』と答えると、『いや、できる』と言った」。彼は、その言葉に政治の世界に飛び込む決意をしたようだ。

3月28日（木）

日中、市場で、成績優秀者への賞品のポットやザックを購入。夜は、やはり大統領選に立候補したマスードの弟ワリ・マスードのパーティに。アブドラも立候補しているのに、どうして候補者を一本化できないのか不思議でならない。

3月29日（木）

朝、安井さんと一緒にパンシールへ向かう。金曜で学校は休みなので、荷を置いて、アハマッドとマスードの家を訪れる。マスードと見たパンシール川とヒンズークシの山並みを撮りたいと2階の寝室に入ろうとすると、鍵がかかっている。「立ち入りを禁じる」と書かれた紙テープが鍵穴の上に。「母が書いたんだ。思い出の場所だから」と聞かされる。書斎に入ると、机に大きな地球儀があり、書棚には私の写真集『地を這うように』が立てられていた。部屋は父親が使っていたままだと聞いて胸が熱くなった。

その後みんなと裏山に登る。雷が鳴る中、岩に座り仲間たちと語らうアハマッドの姿は、若き日の父親の姿そのものだった。

3月30日（土）

生徒の登校風景を撮ろうと故サフダル校長の家を早く出る。1年生は23人と聞いていたが、教室にはパラパラとしか姿がない。雪崩の危険があるので、休んでいる子が多いらしい。先生たちに挨拶を済ませ、登校した生徒に昨年の写真やノート、お菓子を配る。昼になって雪が溶けて危ないので授業は早めに終了。

午後、マスードの廟があるサリチャへ向かう。アハマッドが廟のそばに作った売店とコーヒーショップの見学だ。店内ではマスードの関連書籍、マスードの写真が入ったマグカップやTシャツが売られていた。マスードのことを知らない若い人たちに知ってもらうためのアイディアとのこと。安井さんは賛同していたが、私は違和感があった。しかし、「時代の趨勢」と自分に言い聞かせる。

その後、マスード財団が支援している孤児院「希望の家」を訪ねる。交通事故や殉職した警官の遺児40名が入所。アハマッドが子どもたちと遊んだり、ディズニー映画を観る姿が印象的だった。

夜、サフダルの家で、大学受験を間近に控えたシャボナが、「私たちが自分の家を造れたなんていまだに信じられません。家を造り始めたとき、資金も満足になく、もし、屋根ができなかったらどうしようと思っていたんです。そんなとき支援をいただいて、日本のみなさんに心から感謝しています」と話した。

3月31日（日）

1年生の顔がそろってきたのでカバンを配り、名簿作りのために名前を書いたノートを掲げてもらい撮影。ノートが大きく傾いたり、年齢を4歳と言ってみたり。新任の非常勤教員2人に他の先生の給与支援額の3分の1の20ドルを支給することを決めた。

学校が終わってから、パンシールの上流部に行ってみる。宝石商が多

いせいか3～5階建ての家が軒を連ね、「パンシールのドバイ」と言われるヘンジや、山上の湖が決壊し百人以上の死者が出たプジュグールを回る。昔に見た小麦を挽く水車小屋を撮りたいと思ったが、今は電気で挽くのでもうないと聞いて寂しく思った。

4月1日(月)

学校で名簿作りの続き。昨日欠席した生徒や新任の先生の顔撮り。お昼は昨年同様、卒業生で下の町のバザラックで物理の先生をしているファヒームの家によばれる。フェイスブックをやっていて、私のホームページや商店塾のフェイスブックにも投稿してくる。彼の弟の1人はインドへ国費留学、もう1人は家族に負担をかけまいと、月々手当が出るファヒーム元帥大学に通っている。

午後はホラム先生の家へ。一家の五女マリアムが従兄弟のワッハーブと婚約。2人は学業が終わったら結婚するようだ。長男ナウィードはカブール工科大学の建築科に合格した。歩いて4時間もかかる町にあるマスード工業高校にがんばって通っていたかいがあって難関大学へ合格できて、ホラム先生もうれしそうだ。

4月2日(火)

サフダルの家を出て学校へ向かう途中、下の町の高校に通う子どもたちと次々と出会う。みんな懐かしい顔ばかり。「どの子もこんなに大きくなって」と懐かしさとうれしさで胸がいっぱいになる。その中にマジャミンの姿も。弟とけんかをして前歯の先が欠けてから、口を大きく開けて笑うことのなかった彼女に、歯の治療費をカンパする。彼女も来年は大学受験だ。

4～6年の教室を回り、スマホに入っているシベリアのオオカミや3月に訪れたツンドラのトナカイ遊牧民の写真を見せる。日本のお城や北海道、私が訪れた日本各地の風景や花々の写真も見せる。「美しい」「すごい」「行って見たい」と声が上がった。

お昼前にゼケルラーの兄で、いまヘラート大学でジャーナリズムを勉強しているショーケルも「昼食に招きたい」とやって来た。ショーケルは「オマール(私)、日本で困ったらいつでもここに来て。私が面倒を見るから」と言う。その気持ちがうれしかった。

卒業生たちも、その家族もみんなが別れを惜しんでくれた。生徒たちも「また来年も来てね」と手を振ってくれた。別れを惜しみながら、私はカブールに向かい、4月4日、帰国の途についた。

山の学校の映画制作について

河邑厚徳監督から、「視点をもっと広げて、『長倉洋海とマスード』を取り込んだものにしたい」と連絡をもらっていました。今回、「国の行く末がほのかに見える光が必要だと考えています。新しい国の建設と結びつけば、子どもたちの感動のドラマが描けます。映画を始める為の時間を待ちたいと考えます」というメッセージをいただきました。

映画制作は当面、難しいようですが、いつかみなさんに観ていただける日が来ると信じて、その時を待ちたいと思います。

長倉洋海

成長した子どもたち

ショーケル　ヘラート大学ジャーナリズム学科の4年生。戦争で学校が閉鎖されて1年遅れで進学。弟のゼケルラー、妹のナルゲスも、家族は全員おでこが広いのですぐわかる。毎年、昼食に招いてくれる。

ラキマ　モンゴル系少数民族ハザラ人。通常の就学より遅く12歳で入学してきたが、まわりの子の面倒をよく見ていた優しい子。学業途中で好きな人と駆け落ち。今は家族に認められ、3人目の子も生まれ、とても幸せそうだ。

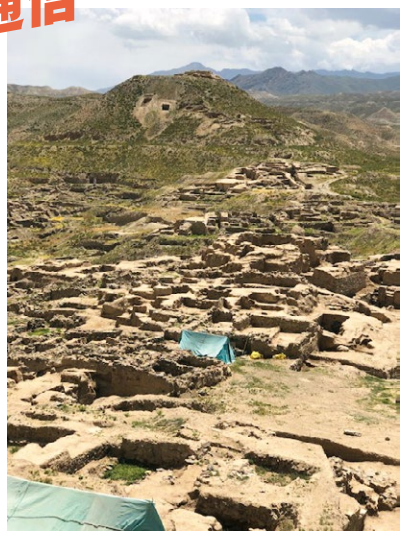
誰だかわかるかな

マジャミン　山間部で家族と生きる生活を写真で描いた『アフガニスタンの少女マジャミン』の主人公。幼かった彼女も今は高校生。背が伸び、表情もすっかり大人びた。来年は大学進学のための統一試験がある。

ムルサルさんのカブール通信

＊米国とタリバンとの和平合意があと一歩というところで暗礁に乗り上げてしまった中、タリバン政権崩壊後4度目となるアフガニスタン大統領選挙が再選を目指すガニ大統領（70）と政権ナンバー2のアブドラ行政長官（59）との一騎打ちのかたちで9月28日に行われました。政府は7万2千人の警官や兵士などの治安部隊をアフガン各地に配置し、厳戒態勢下で行われた選挙ですが、民放「トロテレビ」は投票所などの選挙関連施設へ260回以上の攻撃、少なくとも警官と市民併せて29人が死亡、100人以上が負傷したと伝えました。タリバンは選挙前に投票所への攻撃を予告し「投票に行くと痛い目に遭う。いかないように」という妨害宣言を出していたこともあり、960万人の選挙登録者数に対して投票者数は過去最低の260万人とアフガン選管が発表。2014年が約660万人でその半数にもいかない結果となり、このあまりに低い投票率に選管がどう対応するのかに、関心が集まっています。選挙の暫定結果は10月19日に、最終結果は11月7日に発表される予定です。

アフガン和平ならず、大統領選の混乱もさておき、カブールから南東に40キロのロガール州にあるメス・アイナク遺跡（**右上写真**）から7世紀頃の仏教経典の写本の一部が発見されました。写本を解読した仏教大学の松田和信教授によると、樺皮にブラフミー文字で書かれたサンスクリット語で大乗仏典の「八千頌般若経」や弥勒菩薩が成仏することを釈迦牟尼が予言する内容の「弥勒下生成仏経」が書かれていました。同時期アフガニスタンを旅した玄奘三蔵もここメス・アイナックを訪れていたかもしれませんね。



メス・アイナック遺跡は、世界有数の銅の鉱床が遺跡の下に眠っており、鉱山開発が重要な歳入減となっているアフガン政府は、2007年に30年間の採掘権を30億ドルで中国企業に売却。今後の発掘にまだ数10年はかかると見られますが、開発と文化財の保護の両立をはかることが今後の課題となりそうで、和平が実現した暁には遺跡公園として観光客誘致も考えているようです。

アフガニスタン・カブール

安井浩美

事務局より

- 2020年用の写真カレンダーは1部1500円、2部以上の場合は1部1350円。ご入金を確認次第、順次発送いたします。詳しくはチラシをご覧ください。
- 2020年度の会費の振込用紙を同封いたしました。ご入会されたばかりの方もいらっしゃいますので期日は設けませんが、納入をお願いいたします。なお、2019年度分未納の方には2019年分も同封しました。
- 不要切手や書き損じはがきのご提供、ありがとうございました。今回の発送にも早速使わせていただきました。今後ともご協力をお願いいたします。
- 住所変更の場合は、お手数ですがメールやハガキなどで事務局までご一報ください。

イベントなどの報告

ダイアリー 2019

▶1月19日（土）　福岡報告会

▶4月7日（日）　アフガニスタンを「食べて」「見て」もっと知ろう3
東京・東中野ろまらくだにて

▶9月15日（日）　総会・報告会　東京にて

スケジュール 2020

▶1月26日（日）午後2時。
文化講演会「アフガニスタンとシルクロード」（仮題）
講師：**前田耕作氏**（アフガニスタン文化研究所所長、和光大学名誉教授）
会場：**武蔵野商工会館4階 市民会議室**（東京・吉祥寺）
（詳細は同封のチラシをご覧ください）

▶4月以降　**アフガニスタン大使館見学ツアー**（平日）
関心のある方は事務局宛にメールしてください。

▶秋　**総会・報告会**　東京にて

2019 総会のご報告

＊9月15日、東京にて第2期第3回目の総会・現地報告会が105名のご参加を得て行われました。

長倉代表が130枚の写真をスクリーンに映しながら山の学校の子どもたちや活動の様子を報告。続いて、カブール在住の安井浩美さんと電話をつなぎ、参加者の質問をもとに現在のアフガニスタン情勢などを伝えてもらいました。

普段知りようのないアフガニスタンのことがより身近に感じられたという声が多く寄せられました。

（＊総会にて配布した2018年度の会計報告を会報に同封します。）

アフガニスタン山の学校の會

アフガニスタン山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会ったパンシール渓谷ポーランデ村の子どもたちの教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年4月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたって活動を続けてきました。その後2017年3月まで活動を延長。4月より第2期支援活動をスタートしました。

アフガニスタン山の学校だより　**ばあーる 2019**年号／通算**35**号

発行日：2019年11月24日　発行：アフガニスタン山の学校支援の会
〒187–0032　東京都小平市小川町 1–1071–15 比留川 気付
【振込先】ゆうちょ銀行 振替口座
加入者名：アフガニスタン山の学校支援の会　口座番号：00160-1-667404
電話：070–3281–1180　E–mail ▶ info_yamanogakko@yahoo.co.jp
http://www.h-nagakura.net/yamanogakko
編集・発行人：長倉洋海／題字・イラスト：近藤理恵／デザイン：桂川 潤
編集実務：森 桂子・重野陽子・三輪ほう子／印刷：藤田印刷株式会社